

日本語と日本文学

第 15 号

『平家物語』の本文批判 ……………小西 甚一……(1)
—— 水平伝承と垂直伝承 ——

平安朝の朗詠常用曲……………青柳 隆志……(29)

読みにおける子どもの脈絡と大人の脈絡……………高木まさき…(左 1)

複合名詞のアクセント……………崔 聖 玉…(左 12)
—— N1, N2 がともに 2 拍以下の場合 ——

韓国人の日本語学習者の誤りの評価……………趙 南 星…(左 19)
—— 日本語話者と韓国語話者による誤りの重み付け ——

平成 3 年 12 月

筑波大学国語国文学会

投稿規定

- 一、投稿論文は三十枚程度。
- 一、原稿〆切は毎年度、二月末日および八月末日。
- 一、原稿送り先

305 茨城県つくば市天王台一―一―
〒筑波大学 文芸・言語学系事務室内

『日本語と日本文学』編集委員会

投稿案内

昭和六十一年総会で『日本語と日本文学』誌の年二回発行が決まりました。これは創刊当初に計画しました最小発行回数をやうやく実現できたものであるます。

これに従い、編集委員会では投稿規定を一部改め、二月末日の二度締切を設けることにしました。論文の対象分野および枚数三十枚程度は従来通りとします。

なお、投稿原稿は編集委員会の審査を経た上で掲載させていただきます。

学会の顔ともいべき本誌の一層の充実は、強く願われるところです。学内外を問わず、広く会員の皆様の投稿を仰ぎ、さらなる発展を期したいと思います。

積極的に御協力下さいますようお願い申し上げます。

編集後記

『日本語と日本文学』第十五号をお届けいたします。今回は小西先生からご寄稿いただきました。

昨年もそのようでしたが、二月末しめぎりの号はやや原稿の集まりが悪く、今回も刊行が遅れてしまいました。次号以後もどしどしご投稿下さりたくお願い申し上げます。
(高田 誠)

平成三年十二月二十日印刷
平成三年十二月三十日発行 第15号

305 茨城県つくば市天王台

〒筑波大学 文芸・言語学系内
編集・発行 筑波大学国語国文学会

代表者 森 野 宗 明

発行所 (有) 笠 間 書 院

101 東京都千代田区猿樂町二―一―五

〒 電話 ○三(三三九五)二三三一

振替口座 東京 一―五六〇〇二